

# 乳幼児の発達に沿う保育の歌を選曲する必要性

## — 心体の発達、音楽・リズムの育ちに注目して —

The need to select childcare songs that are in line with the development of infants  
- focusing on the development of mind and body, and the growth of music&rhythm -

杉山 真規  
Maki SUGIYAMA

### 1. はじめに

乳幼児期は、人格形成の上で極めて大切な時期である。現代社会における家族構成は、核家族化が進んでおり、ライフスタイルも多様化している。現在では共働きの家庭が非常に多く、保育園はじめ一時預かり保育施設を利用する世帯が多数存在する。一日の中で子どもと関わる時間において、家庭で過ごすよりも保育の現場で働く保育者と過ごす時間の方が長いという子どもも増加傾向にあるため、保育現場における保育者が、子どもの成長や発達に力添するにあたり、どのような音楽を取り入れると良いのかを探求したい。

子どもの音楽教育に大きな影響を与えたハンガリーの作曲家であるコーダイ・ゾルターンは、「音楽教育は産まれる9ヶ月前から始まる」と述べている。母親のお腹の中にいる時から音は、胎児に聞こえているからである。また生まれてからの6年間は、人の人生を決める最も重要な時代でもあるとコーダイ氏は述べている。子どもが成長するに連れて、幼稚園や保育園は、子供たちが一日の中で最も長く過ごす場所であり、日々、日常を同年代の子ども同士で過ごすことによって小さな社会生活を学ぶ重要な場所であることには間違いのないといえる。保育の現場において、子どもたちの人生を決める最も重要な乳幼児期に携わる事になる保育者は、子どもたちの成長や発達を健やかに導くためにはどうすればよいかと常に思考を重ね、子どもの発達に効果的があると思われることに關しては、実践として現場に取り入れるべきではないだろうか。

そこで今回は、乳幼児期（0-5歳）のうち、乳児期（0-2歳）の心体の発達段階に着目する。乳児期は、心体の発達が目覚ましい時期であるが、体の発達に比べて心の発達は外見からは判断し難いものである。生まれてから乳児の興味の先は、まずは外界に向かい、五感を通じて様々な刺激を受けているのである。乳児に関わる保育者は、主として家庭においては、世話をしてくれる母親と父親とその家族である。また、家庭以外となれば、保育の現場が主となり、保育士がメインとなる。乳児は常に、関わりを持つ人の会話や表情に反応したり、共感することで安心感や信頼感が育成され心の発達とつながるのである。更に豊かな感情や能力を引き出すには、子どもの成長と発育に沿った音楽を取り入れることが大切であるが、一体どのような音楽（歌）を選曲することが望ましいのかを分析したい。

key word：乳児期 心体の発達 音楽・リズムの育ち 保育の歌 わらべうた

## 2. コーダイ音楽教育に対する考え方

コーダイの音楽教育の基礎は、子どもの身体・情緒・知性の成長段階によりそった、課題と方法論によるものである。また特徴としては、一貫性と計画性が挙げられる。コーダイが保育者に求めているものは、「母国語のわらべうたから始める音楽教育」であるため、単刀直入に言うと、日本の言語・音楽・文化を基本にして、それを一貫教育として用いることが出来る音楽教育が当てはまるだろう。子どもは歌を歌うことが大好きである。乳児期のように、十分に言葉が出ない年齢でも、全身で体を左右に揺らしたり、楽しそうにリズムに乗ろうと試みながら歌っている子どもをよく見かける。

これから、自身の実体験を述べてみよう。私は、幼稚園での集団生活に馴染む準備を目的として、2歳の誕生日を迎える秋から、幼児教室に通った。そして、3歳児保育対象となる4月を迎え、幼稚園に入園した。年少保育のパンダ組では、毎日、歌と共に一日を過ごしていたが、その中で、はじめてお気に入りのうたが出来た。そのうたはダンス付きの「大きなくりの木の下で」だった。習ってすぐに、自宅でダンス付きで歌いながら両親に披露した。決して上手ではなかったと思うのだが、とても喜んでくれて褒めてくれたことをよく覚えている。それから毎日のように幼稚園から帰宅すると、必ず、お気に入りのうたや、幼稚園で習ったことをお家で楽しく歌い踊っていたが、母も一緒に歌ってくれたり、幼稚園から持ち帰った絵本を読んでもくれたり、私に接する時間を作ってくれた。何に対しても、一つずつ出来る様になった出来事に対して、毎回、ニコニコして褒めてくれたことを今でもよく覚えている。褒められることは、子どもながらにとっても嬉しくて、大人になっても心に残っているものであるが、次は、何を両親に披露しようか？という好奇心や発展への気持ちに、つながっていったことも確かである。

このように、手遊びや歌遊び、歌いながら体全体でリズムカルに動くことは、身体表現への発展につなげて行くことが出来るので、歌は、子どもの発達には欠かせないものと言える。私の母のように、歌を通じて、毎日子どもの気持ちを大切に尊重して接していると、子どもには、何かにチャレンジしようとする気持ちや姿勢、子どもの新たな創造性や未知的な能力を引き出す方向へとつながっていけると言える。事実、幼稚園でのダンス付きうたが大好きだった私は、両親に披露したことが原点となり、音楽・ダンスに興味を持つようになり、クラシックバレエを習い始めるきっかけとなった。やはり、保育者は、子供たち一人一人の状況に応じて、その力や能力を見い出して、最大限に引き伸ばしてあげることが重要である。

## 3. わらべうたと子どもの関わりについて

乳幼児教育において、日本でよく用いられる子どもの歌であるわらべうたには、子どもに歌わせることでどういった利点があるのかについて調べてみることにした。

### (1) わらべうた

大きく分類すると、伝承歌と生活の中で伝えられてきた子どものための歌の2種類ある。

### ①伝承歌

- ・日本の民衆が、それぞれの地方で生活する中で代々歌い継がれてきた歌
- ・大人のための伝承歌とは、民謡、講談、都都逸など
- ・個人が考えて作詞作曲した歌（童謡、唱歌、歌謡曲ではない）

### ②生活のなかで伝えられてきた、子どものための歌

- A 遊び歌＝遊びと一体となっている歌
  - ・遊ばせ遊び＝乳児に、大人が1対1でしてあげる遊びうた
  - ・わらべうた＝子ども同士で、群れて遊びながら歌い継いできたもの
    - \*リズムだけの歌（カタカナ表記）、音のついた歌（ひらがな表記）
- B こもりうた
  - ・子どもを寝かせる時に歌われた（子守りの歌、親の歌）
- C 語呂合わせ＝音やリズムの決まっていない言葉遊び

### (2) わらべうたの利点

#### ①子どもの成長の助けになる要素が含まれている

- A 身体の発育を促す
  - \*触れられて（遊ばせ遊び）/自分が動いて（わらべうた）
- B 情緒（心の安定や豊かさ）を育てる
  - \*触れられて（自己認知）\*愛着関係ができる
- C 知的な発達を促す
  - \*豊かな言葉 \*始めと終わり・順次性など \*擬似社会の体験

#### ②日本人のアイデンティティを育てる

- A 日本語の持つ、自然なリズムと音からできている
- B 日本語の特徴「見立て」や「語呂合わせ」「擬声語・擬態語」などがたくさん入っている
- C 日本の文化・伝統・行事・自然などを遊びの中で体験できる

#### ③幼児の「わらべうた」は子ども同士で遊ぶことを通じて

- A 人間社会の様々な出来事を、遊びとして、擬似体験できる（社会の組織・人間関係など）
- B 擬似体験をすることで、自分で見て、自分で考え判断し、自ら行動する、自立し自律した人間に育っていく



楽譜 1

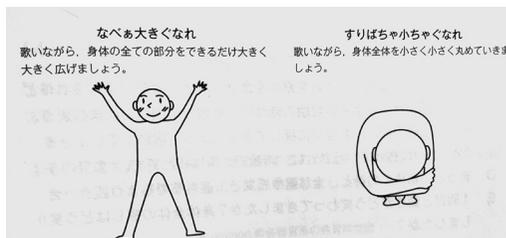


図 1

楽譜 1 は、自分自身の身体を感じて、人間の身体を知るためのわらべうたの楽譜である。図 1 は、楽譜 1 の歌詞に沿った身体表現である。

保育者がピアノを弾いて、この曲を子どもと音楽的表現と身体表現をする場合について考えてみる。

楽譜 1 をピアノで演奏する場合、歌詞に着目して、2小節目から4小節目にある「おおきくなれ」の言葉に合うように、ピアノの音量をだんだん強めてクレッシェンドして演奏する。図 1 の「おおきくなれ」のイラストによる身体表現を音楽表現であるクレッシェンドの意味に一致するように、大きくと手を空高く届くほどに広げて表現する。身体の仕組み・五感・感情を意識して同時に用いて表現することで、音楽（うた）は子どもの発達を手助けできる要素であると言えるだろう。

わらべうたの利点から言えることは、子どもと触れ合い、遊びを通じて、子どもの身体的、情緒的、知的な成長を促すことができると言える。歌詞は子どもたちにとって、なじみのある覚えやすく発音しやすい言葉を用いることが重要である。音楽的な面から考察すると、リズムに乗せやすく、歌詞の言葉も発音しやすいうたであると、尚更望ましい。歌いだしの音の高さに関しては、日本語の持つ自然なリズムと音や日常の話す言葉の高さを意識して歌を選曲すると自然に子どもたちは歌に入りやすいと言える。

#### 4. 乳幼児期6年間の重要性

十時やよい氏によるとコーダイ音楽教育の研究と保育現場に携わる中で得たことを乳時期・幼児期に身につけて欲しいと論じている内容について、乳児期の0-2歳（表1）と幼児期3-5歳（表2）に分けてそれぞれ詳細を表にまとめてみる。

表1 乳児期3年間で身につけてほしい 人となる基礎

愛着関係	・1対1での関係をしっかりと育て、自我を育てる
五感を開く	・触感（触る・触られる）、聴覚（聴く）、視覚（見つめる）、嗅覚（花・食べ物など）、味覚（材質の違い・味の違い）
自己認知	・自分の体を感じて自分の存在を形として感じる ・体のシンメトリーを感じる ・各部位（頭・手・足・背・胸・お腹・お尻）を感じ、動かす
歩きの基礎	・体幹を育てる ・重心の移動

表2 幼児期3年間で身につけてほしい人間的力と音楽的力

継 続 力	・繰り返しの面白さを知る・同じことを繰り返す力
記 憶 力	・五感で得た情報を留める習慣 ・経験を言語化する習慣
空 間 認 知	・上下・左右・前後・斜め ・広さ・長さ・高さ
自 己 認 知	・自分には心=感情があること。良いとされる感情も、悪いとされる感情も両方持っていること。どちらも大切なこと ・自分以外の人にも、感情があること ・自分には言葉があって、表現したり、伝えたり出来ること ・言葉は、人や動物や物に名前をつけて、表せられること ・言葉は、物事の様子や動きなどを説明出来ること ・言葉は、感情を表せられること
身体の発育	・無駄のない自然な歩き・走り・停止・方向転換・継続力など ・空間認知（視覚と運動の連動）
情緒の発育	・様々な感情の体験と言語化・自己コントロール力 ・物語の理解
知的な発育	・見立てなどによる物や言葉の概念 ・10までの数学的体感 ・空間認知（形・方向性・時間・速度）
歌 う	・聴く・歌う・覚えるがごく自然に出来る＝習慣化
拍 感	・拍で歩く：歌に合った自然な歩き ・拍叩き：歩くように叩きましょう＝膝叩き
リズム叩き	・歌うように叩きましょう＝手叩き
モチーフ感	・交互唱
抽 象 化	・音声歌い（言葉ではなく、パ・マなどの一つの音声で歌う）
	〈注意〉①但し、言葉で説明したり、名前（拍やリズムなど）を教えることはしない ②五感を通じて感じ、見分け、聞き分け、自然に動くように、遊ぶ！ ③言葉での説明、名前を覚えることは、学童になってからの課題 ④学童になって、言葉を言語として学ぶ時に、生きた言葉として受け止めるために、多くの体感や体験を意識的にする時期

表1、表2において、乳児期・幼児期に身につけて欲しいとされる項目のうち「自己認知」を取り上げて、乳児期と幼児期を比較してみる。前者は乳児が、自身の体は自己のものであることを認識できるようになったり、覚え始めた言葉を発せられるようになることがわかったが、前者は後者のように自己の感情的な表現はまだ確立している段階にはないと言える。後者は、前者より更に高度な段階の発達、例えば、自身の感情表現を、いくつもの言葉をつなぎ合わせて文章として話せるようになり、また、自分の思いを伝える方法だけでなく、相手の立場になって思いを受け止められるようになることがわかった。

音楽を取り入れた手あそびを用いた場合、保育者と一対一で愛着関係を築く中で、音楽表現の分野から分析すると、前者は、「触る」「見つめる」のように、とても単純な事柄である五感を開発し

ていく段階であるに対して、後者は、あるものごとを継続して行う場合は、聴く・歌う・覚えるが習慣化してできるようになる。更に、歌の拍子に合わせて歩けるようになり、リズムに関して音楽表現の面では、歌うように豊かな手拍子、音の大きい小さいを区別して、強弱をつけられるようになることが理解できる。

## 5. 乳児期の発達と音楽・リズム

発達の著しい乳児期には、更に細かく乳児の心と体の発達を理解することが必要である。子どもの発育に合うように、関連付けられる音楽・リズムを用いるには、保育者はどのような歌を選曲することが良いのだろうか。

コロナ禍である為、外出を控えていたが、今回、子どものうたに関する楽譜・文献の資料のため、書店に向いてみると、店内は、本当に自粛中なのだろうかと思ってしまう程、思っていた以上に混み合っており、日にちや時間帯を何度かに分けて来店するように心がけるようにした。研究を進めるにあたり、大型書店を中心に何店舗か巡ってみると、子どものうたの楽譜集に関しては、現在、様々なシチュエーションに対応できるよう出版されたものが多数棚差しされていた。編纂の目的も方法もそれぞれ異なっており、保育の歌・伴奏集として昭和時代から改訂を重ねて発刊されている曲集も多数存在することも確かである。だが、近年の急速なメディアの発達により、子供が、スマートフォン、タブレット、PCを手に行っている様子を見かけることが多く感じられるため、できる限り新しい情報が掲載されている著書から分析を試みようと考えた次第である。

令和に出版された曲集である、阿部直美編著「0・1・2歳児の手あそび&ピアノ伴奏」を元に、乳児期0歳から3歳になるまでの発達について、まずは年齢順に、体の発達、心の発達、音楽とリズムの育ち別に表3を作成する。また、各発達に適していると記載があるうたに関しては、表4にまとめる。表4の歌を音楽的に調査する方法としては、曲名、調性、曲の速さ、拍子、1小節目に使用されている1音目の音符の種類と音名、歌詞に使用されている出だし1音目の五十音の種類、各うたによる発達への促しについて、表5に、27曲の詳細をまとめる。

表3 体の発達、心の発達、音楽とリズムの育ち

	0歳0ヶ月	0歳6ヶ月	1歳0ヶ月	1歳6ヶ月	2歳0ヶ月	2歳6ヶ月	3歳
体の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原始反射</li> <li>・腹ばいで顔を上げる</li> <li>・把握反射</li> <li>・首が据わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝返り</li> <li>・お座り</li> <li>・すりばいハイハイ</li> <li>・つかまり立ち</li> <li>・立つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つたい歩き</li> <li>・ひとりで歩く</li> <li>・くぐる</li> <li>・またぐ</li> <li>・下りる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段に手をついて上る</li> <li>・三輪車にまたがり足で蹴って進む</li> <li>・腕を回転させて線を描く</li> <li>・でこぼこ道を歩く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速い⇔遅いの動きを調節する</li> <li>・両足でその場跳び</li> <li>・バランスをとって走る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハサミで一回切りする</li> <li>・ケンパーをする</li> <li>・三輪車に乗る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒にぶら下がる</li> </ul>
心の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快と不快</li> <li>・目と手の協応関係</li> <li>・喃語のはじまり</li> <li>・特定の人への識別</li> <li>・人見知り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音を楽しむようになる</li> <li>・探索行動</li> <li>・後追い</li> <li>・初語の出現</li> <li>・指差し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を呼ぶと返事をする</li> <li>・しぐさを真似る</li> <li>・自我の芽生え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二語文で話す</li> <li>・かみつき</li> <li>・表情を読みとる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉で要求を伝える</li> <li>・つもりあそび</li> <li>・興味・関心の広がり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自我の拡大</li> <li>・ごっこあそび</li> <li>・友達をあそびに誘う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想像したことを言葉にする</li> </ul>
音楽とリズムの育ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛着関係の形成</li> <li>・対象物の理解</li> <li>・曲を通して感情の交流を育む</li> <li>・喃語を生かす</li> <li>・皮膚感覚を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お座りをして対面で遊ぶ</li> <li>・聞き取りやすい曲</li> <li>・メロディーを楽しむ</li> <li>・発声しやすい曲</li> <li>・名前を呼ぶ遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テンポに合わせて体を揺らす</li> <li>・手指への刺激</li> <li>・保育者の動きを真似る</li> <li>・体の部位を触る遊び</li> <li>・運動感覚を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拍子を楽しむ</li> <li>・見立てあそびを楽しむ</li> <li>・歌詞を理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大小の音の違いを楽しむ</li> <li>・保育者とのやりとりを楽しむ</li> <li>・手指を動かして遊ぶ</li> <li>・イメージの広がり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を楽しむ</li> <li>・じゃんけんの形を知る</li> <li>・友達と一緒に楽しく遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムに合わせて踊る</li> <li>・生活習慣を促す</li> </ul>

表4 身体の発達に沿う音楽とリズムの育ちによる年齢別に適した曲（うた）

年齢別、音楽とリズムの育ち		発達に沿った曲名
0歳0ヶ月	愛着関係の形成	1.ちょちちょち あわわ
	対象物の理解	2.いないいないばあ
	曲を通して感情の交流を育む	3.ゆりかごのうた
	喃語を生かす	4.パチパチ レロレロ アワワワ
	皮膚感覚を促す	5.めぐろさんをまいて
0歳6ヶ月	お座りをして対面で遊ぶ	6.でこちゃんはなちゃん
	聞き取りやすい曲	7.ちょうちょう
	メロディーを楽しむ	8.シューベルトのこもりうた
	発声しやすい曲	9.ぞうさん
	名前を呼ぶ遊び	10.おつむてんてん
1歳0ヶ月	テンポに合わせて体を揺らす	11.おひざのおうま
	手指への刺激	12.おおめこめめ
	保育者の動きを真似る	13.パパンのぞうさんゲーム
	体の部位を触る遊び	14.あたまかたひざポン
	運動感覚を促す	15.こっちむいて うさぎさん
1歳6ヶ月	拍子を楽しむ	16.むすんでひらいて
	見立てあそびを楽しむ	17.いもむしごろごろ
	歌詞を理解できる	18.もみじ
2歳0ヶ月	大小の音の違いを楽しむ	19.大きくトン 小さくトン
	保育者とのやりとりを楽しむ	20.せんべ せんべ
	手指を動かして遊ぶ	21.キャベツのなかから
	イメージの広がり	22.山ごやいっけん
2歳6ヶ月	言葉を楽しむ	23.とんとんとんとんひげじいさん
	じゃんけんの形を知る	24.グーチョキパーでなにつくろう
	友達と一緒に楽しく遊ぶ	25.やおやおみせ
3歳	リズムに合わせて踊る	26.ちびっこザウルス
	生活習慣を促す	27.ねずみのはみがき

表5 発達に沿った27曲の音楽的分析（表4の曲番号順に記載）

	調性	曲の速さ	拍子	1小節目1音目に使用されている音符の種類	1小節目1拍目に使用されている音名	歌詞出だし、1音目に使用されている五十音の種類	各うたによる表現に関わる発達への促し
1	イ短調	♩ = 94	4 / 4	四分音符	一点イ	ちょ (cyo)	愛着関係
2	記載なし (リズム譜)	♩ = 88	2 / 4	三連符	記載なし	い (i)	愛着関係
3	へ長調	♩ = 60 ゆったりと優しく	2 / 4	八分音符	二点ハ	ゆ (yu)	子どもと気持ちの交流を促す
4	ハ長調	記載なし	2 / 4	八分音符	一点ハ	お (o)	愛着関係

5	記載なし (リズム譜)	♩ = 80	2 / 4	八分音符	記載なし	め (me)	皮膚刺激
6	イ短調	記載なし	2 / 4	八分音符	一点イ	で (de)	皮膚刺激
7	ト長調	♩ = 104	2 / 4	八分音符	二点二	ちょ (cyo)	リズムが聞き取りやすく耳に心地よい
8	ハ長調	記載なし	4 / 4	四分音符	一点ホ	記載なし	穏やかなメロディーを感じる
9	ヘ長調	♩ = 84-88	3 / 4	付点四分音符	一点ヘ	ぞ (zo)	詩も分かりやすく発声しやすい
10	ハ長調	♩ = 96あそびのテンポで	2 / 4	八分音符	一点ト	お (o)	真似をする
11	ハ長調	記載なし	2 / 4	付点八分音符	一点ホ	おう (ou)	体を揺らす
12	ニ短調	急がず語りかけるように	4 / 4	四分音符	一点ハ	おお (oo)	手指の刺激
13	記載なし (リズム譜)	記載なし	2 / 4	八分音符	記載なし	パ (pa)	真似をする
14	ハ長調	あそびのテンポで	2 / 4	八分音符	一点ト	あ (a)	真似をする
15	ハ長調	♩ = 78-100	4 / 4	三連符	一点ホ	う (u)	見立てを楽しむ
16	ハ長調	リズムカルに	2 / 4	四分音符	一点ホ	む (mu)	手指の刺激
17	イ短調	記載なし	2 / 4	四分音符	一点イ	い (i)	見立てを楽しむ
18	ハ長調	♩ = 104	2 / 4	四分音符	一点ト	あ (a)	歌詞が理解しやすい
19	ハ長調	♩ = 116	4 / 4	付点八分音符	一点ハ	お (o)	見立てを楽しむ
20	イ短調	記載なし	2 / 4	付点八分音符	一点イ	せん (sen)	やりとりを楽しむ
21	ヘ長調	急がずに	4 / 4	八分音符	一点イ	キャ (kya)	手指の刺激
22	ヘ長調	表情豊かに	2 / 4	八分音符	一点ハ	やま (yama)	見立てを楽しむ
23	二長調	記載なし	4 / 4	四分音符	一点ニ	とん (ton)	見立てを楽しむ
24	ヘ長調	あそびのテンポで	4 / 4	四分音符	一点ヘ	グー (gu)	手指の刺激
25	ヘ長調	記載なし	4 / 4	付点四分音符	一点ヘ	や (ya)	やりとりを楽しむ
26	ハ長調	記載なし	4 / 4	付点四分音符	二点ハ	お (o)	歌詞に合わせて自由に表現できる
27	ハ短調	記載なし	4 / 4	付点八分音符	一点ハ	ね (ne)	手指の刺激

### (1) 乳児の発達に沿う歌の選曲における音楽的考察

表3-表5を基にして分析する。

乳児期の心体の発達と音楽・リズムの育ちに沿う歌の選曲について、詳しく調べた27曲の表5を用いて、音楽的な事柄の統計を出す。統計結果と乳児の発達(表3.4)に関連付けて考察する。

#### ①調性について

ハ長調10曲、ヘ長調6曲、イ短調4曲、ト長調・二長調・ハ短調・ニ短調は各1曲ずつ、リズム譜のみで調性が記載のないものが3曲であった。長短調の持つ特有の調性(明るい・暗い)には関

係性はなく、調性は、調号がない、もしくは調号の数が少ない調性の方が、変化記号による音の半音上げる・下げるが曲に最小限の出現で済むため、取り入れやすい曲と言える。

## ②曲の速さについて

特に記載のないもの11曲、言葉で表記されたもの6曲、数字による速度に幅があるもの1曲、 $J = 100$ 台3曲、 $J = 90$ 台2曲、 $J = 80$ 台3曲、 $J = 79$ 以下1曲であった。総してみると、AdagioからAllegrettoまでの速さに収まるため、速すぎる曲は乳児期には向かないことがわかった。また、特に記載のなかったものが多数ある点については、今後、探求を進める必要があるが、成長や発達には子供によって異なることを考慮して、歌の速度を自由に調節して、現場で実践しやすくするためと考える。又は、手遊び・歌あそびの中に、乳児と保育者のスキンシップが多数組み込まれている場合は、皮膚刺激を目的とした曲や手指刺激を目的とした曲のように、歌の歌詞に沿って身体の発達を用いた表現が加わるため、ゆっくりのテンポに設定していると言える。

## ③拍子について

2/4拍子15曲、4/4拍子11曲、3/4拍子1曲であり、6/8拍子は該当なしであった。27曲のうち、9割以上の曲が、2拍子と4拍子であった。子供にとっては、自然と身に付く身体行動である偶数でのカウントは、身近な音楽や手拍子、運動会でお馴染みの行進での足踏みにおいても「いち・に」と元気に身体の動作に反応しやすいように乗りやすいリズムである為、選曲するにふさわしい拍子と言える。さて、3/4拍子についてであるが、山陽論叢2017「日本の子どもの歌」唱歌童謡集の分析と一考察（米倉孝・由起）拍子に掲載による分析によると、日本の子どものうた、3/4拍子曲の掲載頻度の割合は5%とあった。西洋文化には、ワルツというダンス文化があり、民族的に3拍子のリズムに乗ることは何ら問題ないようだが、日本においては、3拍子のワルツのリズムは、馴染みが薄いため、乳児の曲掲載としては避けられているだけと言える。6/8拍子の曲についてであるが、私が子どもたちにピアノを指導するにあたり、「バイエルピアノ教則本」を用いる時にいつも感じていることがある。子供たちの6/8拍子に対する感じ方は、リズムに乗りづらい、楽譜の弾き方がわからないという子どもが多数いる。なぜなら、四分音符をこれまで1拍でカウントしていた読譜を、突然と6/8拍子の曲は、八分音符は0.5拍であった概念を捨てて、八分音符は1拍としての理解に頭の中で転換して読譜が必要になる。6/8拍子に抵抗が生まれると言える。バイエル106曲のうち、6/8拍子が何曲があるのか、数えてみると6曲しかなかった。ピアノ演奏の上達においては、ピアノ学習者に対して、もっと、6/8拍子の曲を取り組ませる必要性があると考え。今回、私が曲の分析をしている阿部直美編著「0. 1. 2歳児の手あそび&ピアノ伴奏」曲集、全曲についても調べてみたが、6/8拍子曲の掲載はなかった。このように、難しい拍子の説明を乳幼児向けの歌に取り入れても意味がないため、選曲に該当なしという結果は妥当と言える。

## ④1小節目1音目で使用されている音符の種類について

八分音符10曲、四分音符8曲、付点八分音符4曲、付点四分音符3曲、三連符2曲、休符から始

まる曲は該当なしであった。八分音符に関しては、♪や別々に♪♪のように音符を2回連続して使用されていることが多く、1拍を二等分してカウントするリズムは、単純な分かりやすいものと言える。分析中のうた曲集には、乳児の心体の発達と音楽・リズムの育ちによる手遊び歌にも掲載曲が多く選曲されているが、コーダイの音楽教育の観点では、乳児期の自然なリズムと音からできているものは、子どもの成長の助けになる要素が含まれているという考えであるため、八分音符が多く使用されている点は、両方において単純なものを取扱っていることが共通して言える点であろう。付点八分音符・付点四分音符・三連符の掲載曲を比較してみると、共通して言えることは、各音符は♪・♪のように連続した形で記譜されている。またその連続で記譜された音符は、同じ高さの音を連続して記譜されていることが多いこともわかった。特に乳児には、音符の種類や多数のリズムパターンを用いるのではなく、同じ音符の種類やリズムを一曲の中に何度も繰り返し使用されている曲を取り入れると継続力（繰り返し行動）が刺激され発達促進に良いと言える。何度も繰り返すことで、日常化へと発展し、体を使っての表現も取り入れやすくなることがわかった。

#### ⑤ 1小節目1音目に使用されている音名について

一点ハ5曲、一点イ5曲、一点ホ4曲、一点ヘ3曲、一点ト3曲、二点ハ2曲、一点ニ1曲、二点ニ1曲、記載なし3曲であった。27曲中、使用されている音域について調べてみると、ロ音～二点ニ音までの範囲内で記譜された楽譜であった。私が、小学1年生の生徒にソルフェージュのレッスンをしている、感じることもある。発声練習により音域は訓練において広がるが、子どもの声帯は大人と比較すると、発達段階であるため過度に負担をかけないことが必要であると考え。乳児においては、小学1年生より更に声帯は未熟である為、喃語を発する音域・はなし言葉の音域のものを選曲するように心がける必要がある。小学1年生に発声方法の説明をしないで、二点ホ音以上の高い音域の発声を試みると、あまりに高い声を出そうとするあまり、そのまま頑張っただけで地声のまま出そうするため、怒鳴ったような声になってしまう。発声方法を理解できない乳児の選曲を行う場合、音域に関しては、声帯を痛めないように音域に収まっている曲かどうか、注意を払って選曲すべきである。

#### ⑥ 歌詞出だし、1音目に使用されている五十音の種類について

「お」6曲（「おお」「おう」を含む）、  
「あ」2曲、「い」2曲、「や」2曲（「やま」を含む）、「ちょ」2曲  
「ゆ」「め」「で」「ぞ」「バ」「う」「む」「せん」「キャ」「とん」「ゲー」「ね」各1曲ずつ  
記載なし1曲 であった。

乳児には、言葉を話せるようになるには段階がある。発音しやすい音ほど、早期に習得できると考えるが、舌の使い方にコツが必要な発音も存在する。ダ・ヴィンチニュースwebサイト（2020/5/8）NTTコミュニケーション科学基礎研究所「こども語」調査による、乳児の初語ランキングについてみてみよう。

1位（いないいない）ばあ、2位まんま（食べ物、ごはん）、3位 わんわん（犬など）、4位マ

マ、5位パパ、6位あっ！（注意をひきたいとき）、7位 はい（返事、物を渡すとき）、8位 バイバイ、9位 あーあ（失敗した時）、10位 アンパンマン

初語について、なぜその言葉が最初に発せられたかという理由について、同研究所主任研究員小林哲生氏によると、1つ目は発音のしやすさであると述べている。乳児の口や舌の動きは未熟なため、子音の発音は困難であるが、比較的早期に発音できるものはマ行バ行パ行。2つ目は、乳児自身の伝えたいことや興味がどこにあるかということであると記載があった。

乳児の発音の発達段階について分析してみると、乳児は、母音から発音できるようになり徐々に子音が発音できるようになることがわかった。乳児期の歌に用いるものは、母音を中心の歌詞を選び、次の段階としては、身体の発達に伴って発音できる子音であるかどうかを、保育者は見極めてよく判断して選曲すべきである。特に曲の出だしの1音目の五十音については、母音で始まるものを選曲すると、次の音へのつながりもスムーズな発音が期待されると言える。

## 6. 最後に

乳児の心体の発達には、音楽・リズムの育ちを促すための歌である、わらべうた・手遊び歌を取り入れることで、乳児と保育者との心のつながり、子どもの目を見てアイコンタクトをしっかりと取りながら、語りかけたり気持ちを伝えることで、子どもには安心感や信頼感を与えることができる。年齢別発達に沿うように、0歳児には音楽に合わせて、体を撫でたり、皮膚刺激を取り入れることで、保育者と乳児が対一による愛着関係を育み、自我を育てることで、五感を開花させることに促進できることが今回の分析でよく理解できた。1歳児になった頃には、保育者のしぐさの真似をさせる、テンポに合わせて身体を揺らすことを中心にさせることで、リズム感を徐々に体感させられることもわかった。1歳半ごろからは、心体共に急激な発達期となるため、言葉の理解や自己の感情だけでなく、相手の感情も読み取れるようになる。歌詞の内容もイメージを膨らませる曲を選曲する方が良いだろうし、これまでよりも速いテンポの歌にも対応できるようになる。子どもの発育に伴い、響きの美しい音色を聞き分けられる耳に育てるためにも、ピアノ伴奏について、保育者は綺麗な旋律や音の強弱も子どもたちに伝わるような演奏が求められるであろうし、そういった伴奏譜を選択したりアレンジして演奏できる技術が必要であると考え。保育の現場において、保育者は、子どもの発達をよく理解し、毎日の遊びの中に子供たちの発達に沿った音楽（うた）を取り入れることで、乳幼児の表現を豊かにすることができる。輝かしい子どもたちの未来を開花させるお手伝いができるのは、保育士の特権である。子どもたちからみて、慕われて憧れの存在の先生である保育士は、責任感も必要であるが、とてもやりがいのある素敵な職業だと心から思う。次の機会には、ピアノの表現・演奏法について探究してみたい。

## 引用文献

- 阿部直美編著 2021、すぐできる0.1.2歳児の手あそび&ピアノ伴奏、中央法規出版株式会社 pp.12-15、p.28、p.195
- 十時やよい著、2020、実践と理論に基づく「わらべうた」から始める音楽教育、明治図書出版株式会社、pp. 2～38

菊倍版、2008、標準バイエルピアノ教則本、全音楽譜出版  
教育メソッド、コダーイ・メソッドとはどんなもの？

〈<https://chiik.jp/articles/0j1gD/>〉、2021.02.05

尾見敦子 川村学園女子大学研究紀要第28巻 第2号 67頁～84頁 2017年ハンガリーの幼稚園・小学校の音楽教育における 伝承の歌遊びの意義 2.2 幼稚園教育における伝承の歌遊びの意義 pp.70～73

ダ・ヴィンチニュース NTTコミュニケーション科学基礎研究所「こども語」調査による、乳児の初語ランキング、2020.02.07

〈<https://ddnavi.com/news/366066/a/>〉

米倉孝、米倉由起、山陽論叢、第24巻、山陽学園大学、2017、「日本の子どもの歌」唱歌童謡集の分析と一考察、2-2拍子について、2-3声域についてpp.123～125

小西行郎、小西薫、志村洋子著、2017、赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育第2巻、運動・遊び・音楽、中央法規出版株式会社pp.112～127